



-

-

-

A	出席免除を受けていない正会員数	55名
B	出席免除の適用正会員数	18名
T	全正会員数	73名
C	A の出席者数	25名
D	A のメイクアップ者数	0名
E	B の出席者数	14名
G	C + D + E (メイクアップ補填後の出席会員数)	39名
H	T - (B - E)	69
I	G / H × 100 (例会出席率)	56.5%

本日のプログラム

■会長の時間

藤田龍文会長



皆さん、こんばんは。だんだん、ジャケットを来てても暑くなく、秋っぽい気候になってまいりました。涼しい涼しいとどうも感じがちなんです、十数年前の気候でいくとこれがいつもどおりの普通の気候だということで、日中は部屋暑くなるんですが昔どおりのここ10年ぐらい前の気候に戻ったという部分で、ここ最近暑すぎるという気候だったなというのをつくづく感じますし、どうもこの地域で私ども小さい頃、地元の提灯まつりなんか出ますと、この時期は寒くていられなくて提灯のあの灯りと温かさで温まって夜を過ごしたというのを覚えています、ここ10年くらいはもうそれでも暑くて夜こう用意する飲み物が冷たい物じゃなくちゃ駄目だというようなので、もう気候の温暖化という部分が少しあるのかなと思っています。それでは、本日東白川ロータリークラブから3名の方がいらっしゃっていただいていますので、後程紹介も兼ねてご挨拶も兼ねていただきたいと思います。それでは、先日、ガバナー公式訪問ということで73名の会員でガバナーをお迎えして、通常ガバナー公式訪問の前にクラブ協議会で私どもの一年間の活動計画を聞いていただいて講評いただいたり、その前には会長幹事会ということで会長、幹事と次年度の会長、幹事、そしてガバナーと地区の役員の方々でお話をいただくんですが、私昔幹事の時代とか昨年もエレクト時代に会長幹事会に立ち会わせていただきましたが、ほぼ初めて年次計画書を開かずに終わったぐらいとても今年の泉田ガバナーは西ロータリーのことをとても高評価させていただいております。もちろん、普段から金田ガバナーエレクトとの関係もあり、西ロータリーのいろんな面というのはお耳に入っているようですが、とにかく西ロータリーは雰囲気が良いと。数だけの勝負、数が多いからそのロータリークラブが素晴らしいというのではなく、西ロータリーは雰囲気が良いと。例会にこう会場に来て、いろんな所でこう見てもこう年の差を関係なく皆でにこやかに話しているのを、とてもとても本当に評価いただきました。ほとんど、もう会長幹事会ですからざっくりばらんなフリートークが多かったんですが、西ロータリーさんにはあんまり言うことはない。会員増強も始まってからもう2名入りましたし、女性会員の比率も徐々に上がっているということで、そういったところでは是非どんどん牽引してほしいというのを、とても強く言われたのを覚えております。そして、例会に関しましては約70%以上の出席率ということで、東白川さん今日いらっしゃってますけど、本当はもっと出席率もっともいいんですけど、分母が大きくなってくるとなかなか出席%上げるのとても難しくて、気持ちちは100%目指してはいたんですが、それでも70数%ということで、60名弱ぐらいの会員の方が参加していただいたということで、皆さん職業奉仕もある中いろいろ時間を工面していただいて参加していただいたことを大変感謝しております

し、ガバナーのほうにも西ロータリーの元気の良さや出席率とかそういった部分を確認できたのかと思っております。秋はいろいろセミナーが多くて、職業奉仕セミナーやRIのセミナー等いろいろございますし、先日は青少年交換留学選考会というのも行われまして、本日緊急理事会開かせていただくその一つとして、この地域の青少年交換留学の派遣についての議題ということもありますし、今年40周年ということで記念事業で「ジロデシラカワ」の時に、今日大竹委員長まだいらっしゃってないんですが、大竹委員長のほうでポリオの募金をとても強くやるということで、皆さんはこの赤いポリオのTシャツご覧になったことあるかと思いますが、金田ガバナーエレクトからほぼ会員数Tシャツをお一方1枚ぐらいの割合で寄付をいただきましたので、いろんなちょっとサイズ感がありますので、後程お時間のある方はサイズ感はちょっと合わせていただいて、そのサイズを合わせたのを改めて発注いただけるということになっておりますので、金田ガバナーエレクトには皆さんお礼をしていただければと思います。それでは、東白川さん本年度創立50周年ということで、私共の西ロータリーよりも10歳お兄さんで先輩だということですので、まして記念式典の日にちも私共よりも早いということですので、いろんなとこ勉強させていただいて、私どもも10歳年下ではありますが40周年の式典等にまた参考にさせていただければと思います。本日はよろしく願いいたします。

■幹事報告

運天直人幹事

○泉田ガバナー事務所:2024-25年度地区資金決算報告書・監査報告書の送付について

○国際ロータリー 台北国際大会 推進チームメンバー
出村知佳子 :【台北国際大会通信 Vol.3 2025年9月号】配信

●東白川ロータリークラブ50周年記念事業

実行委員会委員長

押田洋平様



皆様、改めましておぼんでございます。本当に大変貴重なお時間をいただきまして、本日はありがとうございます。ごめんなさい。改めまして、私東白川ロータリークラブの押田と申しまして、今回東白川ロータリークラブ創立50周年を迎えるということで、その実行委員長を仰せつかっております。どうぞよろしく願いいたします。この東白川ロータリークラブ、皆さんお手元の資料にもあると思うんですが、この50周年という記念式典、記念講演を1月24日に棚倉の文化センターの「倉美館」で開催する流れでございます。記念講演がそちらのご案内にもありますように、盲目のシンガーソングライターの佐藤ひらりさんという方をお願いしまして、ひらりさんは新潟県三条市の出身で、武蔵野音楽大総合音楽学科作曲コースを卒業されまして、生まれつき全盲ということで、5歳の頃電子ピアノの自動演奏で流れてきた美空ひばりの「川の流れのように」

を聞き、音楽に興味を持ったという流れでございます。この澄み切った歌声がものすごく特徴で、私もユーチューブで聞いた時にすごくジーンと響いたんですが、一応2013年にニューヨークのアポロシアターで開かれたアマチュア向けのイベントに出演し、ホイットニー・ヒューストンのヒット曲を歌いウィークリーチャンピオンにも輝いたとのこと。最近では、ご存じのように東京パラリンピックで国家も独唱され、そちら資料にユーチューブのQRコードを記載されてますので、そちらのほうを見ただけながらお時間ある時に動画を見ていただいて、何かこう感じていただけるといいかなと思います。是非、当日1月24日、来たくなくなっちゃうんじゃないかと、是非行くぞというふうになるその歌声になるんじゃないかとそういうふうに思ってます。今回実は東白川ロータリークラブ、私実行委員長を仰せつかった時に、やっぱり50年と。私は入会してまだ5年か6年なんですけど、50年という長い歴史を沢山の皆さんにお支えいただいている50年ということなので、やっぱりそのお支えいただいた恩返しをしていき、更には、これから地域を担う若者や青少年に向けて、その恩を若い世代にもこう送っていくというテーマで今回、東白川ロータリークラブ50周年というふうに考えております。実はこのひらりさんの歌声も共に、皆さんと共にこの感謝の気持ち、恩返しをしながら是非今回記念式典というか講演をやっていきたいと思いますので、是非このご会場にいる会員の皆様、沢山の会員の皆様にご出席をいただいてみんなでその思いを共有していきたいと思しますので、どうぞよろしくお願いしたいと思します。更には、事前に実はメール等でご案内もあったと思しますが、それに先立って11月8日にゴルフコンペもあります。私はゴルフはあんまり上手くないんだけど、だけでも東白川の皆さん、ここにいるお二人なんかもゴルフ上手ですし、沢山ここにいる皆さんとしっかりとガチンコ勝負じゃないですけど、そこで交流を深めながら親睦を深めながらのゴルフ大会もコンペもやりたいというところもございしますので、そちらのほうも是非参加をお願いしたいというふうに思します。よろしくお願ひいたします。

●次年度ガバナー補佐

佐藤健吾様



白河西クラブの皆さん、おばんでございます。東白川ロータリークラブの佐藤健吾と申します。本日は大変貴重な例会の時間、お邪魔させていただきまして誠にありがとうございます。そしてまた、日頃より東白川ロータリークラブが皆様に大変お世話になってますこと、重ねて感謝申し上げます。1975年、26名のチャーターメンバーで始まった東白川ロータリークラブの50年を迎えました。RIの承認のもと気盛んに、この東白川地域をもっと良くしよう。もっと活力のある地域にしよう。そういう先人の方々が始まった東白川ロータリークラブがいよいよ50周年ということで、先程、東白川ロータリークラブの元気印、押田会員がいろいろご説明していただけたと思うんですが、是非とも参加していただきたく本日お邪魔させていただきました。よ

ろしくお願ひします。そしてまた、わたくしごとになりますけども、前年度、東白川ロータリークラブより次年度のガバナー補佐ということで推薦をいただきました。パストガバナー補佐会議で承認をいただきまして、2026-27年度県南分区ガバナー補佐予定者として、今勉強させていただいてるところでございす。数々のセミナーとか、先日はガバナー補佐の予定者のセミナーと金田エレクトのご指導のもと、各地区の役員の皆様のご助言をいただきながら、勉強させていただいてるところでございす。県南分区8クラブが、地区と金田ガバナーと密に連携を取ってそれぞれのクラブがそれぞれのロータリーを楽しめるように微力ですけども尽力させていただければと思ひます。今後ともいろいろお世話になります。よろしくお願ひします。本日はありがとうございました。

●50周年記念事業実行委員会副幹事

小野武徳様



改めまして、おばんでございます。白河西ロータリーの皆さん、この会場に来てまず圧倒されました。東白川ロータリークラブ会員11名ということで、かなり少ない少人数で頑張ってるクラブなんですけど、こんなにいるとちょっと緊張しちゃいます。先程、押田実行委員長、元気のいいご挨拶したので私副幹事ということで大体、実行委員長よりお話あったと思うんですけど、西ロータリークラブの会員の皆様に大変日頃より東白川ロータリークラブも大変お世話になっております。わたくし2021-22年度会長でお世話になったんですけど、その時にちょうど金田ガバナーエレクト様がガバナー補佐でちょうど来ていただいて大変その時も、いろいろ勉強を教えてもらった気がいたします。白河って大都会でありまして東白川は田舎で、はるばる1時間かけて来たんですけど、ネオンが光ってて大変今日帰りたくないなんて押田実行委員長とさっき喋ってたんですけど、いや帰んなきゃ駄目だなんて言って、ちょっと淋しい思いでホテルの部屋空いてんじゃねえかなんていうこと言ってたところなんですけど、まあ今後、東白川ロータリーも20人目指して会員増強に今力入れてるところでございすけども、まず50周年式典を大成功させるために皆で力を合わせて11人で頑張ってる次第でございす。またその前に、雪降る前に、「棚倉田舎倶楽部」大変コースも良くなっております。そこで50周年記念ゴルフ大会ということで、そちらは私ゴルフ大好きなので実行委員長勝手に手を挙げて、自分でやってんですけど、そういう中で、白河西ロータリークラブのゴルフなされる方、皆さん参加していただいて豪華賞品を用意して楽しいゴルフにしたいと思ひますので、皆さんのご参加よろしくお願ひいたします。50周年の式典も先程実行委員長言ったように大変盛り沢山の内容で素晴らしいものを企画しておりますので、最高のおもてなしを出来るように努力してまいりますので、皆さんご参加いただきますことをお願ひ申し上げまして、簡単ではございすが白河西ロータリーの益々のご発展と皆さんのご健勝をご祈念申し上げまして、一言ご挨拶にさせて

いただきます。本日はありがとうございます。

■各員会報告

●地区3大ラーニングセミナー委員会 矢田部錦四郎会員



皆さん、こんばんは。50周年おめでとうございます。一足早くお祝い申し上げます。次年度2025-26年度のロータリー三大研修の企画運営を担当しました矢田部と申します。前回、泉田ガバナーが来たと思うんですけど、この研修は泉田ガバナーの地区役員とか、そういった方々を前年度に教育して研修会をおこなったんです。そのメンバーが今、泉田年度を支えています。我々は来年金田ガバナーがしっかりと活躍できるように、しっかりサポートできるように、ロータリーの研修会を実施していきます。地区役員、それからガバナー補佐、3回のセミナーがあります。それをちょっと簡単にここでお話させていただきます。私も初めてその担当になって考えたんです。この三大研修って何なんだろうと。そして、もう不安になって前回の浪江の実行委員長にメールを打ちました。どんな組織で始まったのって言ったら、やっぱり私も、三大セミナーって何だってそこから皆で始まったんだということで、ちょっとホッとしました。今日は、メッセージに概略の組織とか、この三大セミナーについてメッセージで送っておきましたけどPDFファイルじゃないので、ちょっと見にくい部分もありますが来週の月曜日に委員会も持ち上げますので、その時に詳しい資料を差し上げたいと思います。まず一つ目のものとして、地区の研修会の名前が変わるんです。研修というのをラーニングになんかするみたいなんです。正式には12月に決まるんですが、一応新しい研修の名前、これが地区チームラーニングセミナー、会長エレクトラーニングセミナー、それから、クラブリーダーシップラーニングセミナーの3つをやっていきます。この3つの中で、これはみんなロータリーの中でしっかりこうやり方なんか定まっている研修なので、一応これでやるようになっていきます。まずその一つ目の、地区チームラーニングセミナーというのは当クラブでは2026年2月21日の土曜日「グランドエキシブ那須白河」で開催の予定になってます。日程、会場も抑えています。今年のデータだと171名が研修を受けてます。これは次年度ガバナー補佐と次年度部門長、次年度地区委員が就任に備えたもので、ガバナーエレクトが地区のリーダーシップを築き、クラブを支援するようにチームの意欲を高める機会を提供するためのセミナーが地区チームラーニングセミナーになってます。この時は金田ガバナーエレクトが国際協議会のほうに出席して、いろいろと大変な思いで勉強してくるんです。そして、帰ってきて初めてそのガバナーエレクトの次年度へのメッセージを発するすぐ我々にとっては始まる研修会。ガバナーになる決意と次年度どんな方向性でやっていくかという話がここで聞けますので、是非多くのメンバーに参加してほしいと思います。そして、二つ目の研修は会長エレクトラーニングセミナー。これはPELSとって次年度会長予定者は

出席する。これは義務出席になってると思うんです。これは会長経験者はみんなここに出てるので大体内容どんなものをやるかわかっているんじゃないかと思います。もうこれは義務出席。絶対出席しないと駄目だというセミナーなんです。それから、三つ目のクラブリーダーシップラーニングセミナーという、今年度飯坂で行われた時に私もやっぱ会場の準備と色々なものを見させていただきました。ここですごく感じたのは、やはり食事を自分の膝の上こうで食べてる。これはやはり僕らの時はテーブルで食べさせたいなという部分と、会場の会員が隣の分科会でもろに聞こえてしまって、なんか声が大いほうがなんか委員会しっかりやっているような感じで、非常にもっといい環境で会をやっていたらいいなと思うものを感じました。今回は2026年5月17日に、「華の湯」磐梯熱海温泉です。一応ここを予約してます。今年度は、一応出席者が約500名です。この辺も多ければ600名くらいになって、いろんな駐車場の問題もあると思うんですが、この辺も委員会のほうで対応していきたいと思います。この年度で、どんな活動方針でどんな活動をおこなっていくべきかを学び、次年度の活動に反映してもらう大切なこの研修会なんです。こういったものを皆でこれからその3クラブ研修会を、三大研修会を皆で勉強していきたいということで考えてます。それからPETSの日程をちょっと言うの忘れてたんですけど、PETSは2026年3月28～29日、一泊二日です。ここは「八幡屋」さん、石川で行われます。石川ロータリークラブのちょっと手も借りて、このPETSを運営していただきたいと思います。簡単に述べさせていただきました。緊急なんですけど、委員会のメンバー来週の月曜日6時半から当社の「ペイントクラブ」でちょっと会議をやりたいと思いますので、後でまた出欠のほう出したいと思いますのでよろしくお願いします。

●社会・国際奉仕 R財団補助金管理合同セミナー報告 山縣栄寿会員



9月13日に「ユラックス熱海」で、社会国際奉仕委員会とロータリー財団委員会の合同セミナーが行われました。合同で開催したのは今回が初めてかなと思うんですけど、参加者は金田ガバナーエレクトと支部担当委員ということで、大住会員、大竹憂子会員、山縣の4名で、その際約140名の参加でした。あとは地区補助金を今年度活用する支部29市はあるんですけど、そこからも参加されました。次第のほうは一部と二部構成で、一部は社会国際奉仕委員会セミナー担当ということで約1時間20分で、講演のほうは国際NPOの「誰でもヒーロー」の理事長の内山順子さんという方で、テーマが「セブの貧困からみんなのリーダーを育てる」。二部のほうはロータリー財団委員会補助金管理セミナーということで、2時間ということで、ロータリーの財団とか、申請、承認、覚書書の提出とかグローバル補助金についてということで、あと最後、講評でラーニングファシリテーターの佐藤正道さんという方が

喜多方ロータリーの方です。20分程度お話されました。内容については、報告しようかなと思ったんですけど、時間も押してるので出来れば皆さん白河西のメッセンジャー見ていただいて、わたくしのほうで1分間ほどで動画報告していたかと思いますが、その辺などを参考にさせていただければと思います。ただ一つ佐藤正道さんの講評会で言われたのが、今年度白河西ロータリーの地区補助金の使い方と関わり方をちょっと注意してほしいと言われまして、補助金をジロデの運営資金に全部こうお金を渡しただけではやっぱりよろしくないというふうなお話を受けました。最終的に、地区補助金の活用目的に適合しなくて、監査の時に弾かれて補助金の返納を求められるということです。じゃあ、どういう参加の仕方がいいんだということになるんですけども、結局のところはロータリーの会員の方が、やっぱりそのジロデの目的に合った形3つ程あるんですけども、それに合わせた形で何かこう後押ししていればいいんじゃないかということで、私的に考えたらなんかジロデのほうから補助員として何人か参加させてくれないかという形になれば、その目的に適合してるんじゃないかなということなので、その辺ちょっと一考していただければと思います。わたくしのほうからは以上です。あと、また最後に出ます。よろしくお願いします。

■本日のプログラム

●雑誌広報渉外委員会

鈴木典雄委員長



皆さん、こんばんは。そして、東白川ロータリークラブの皆様、今日はお越しいただきありがとうございます。そして、創立50周年おめでとうございます。ちょっとお聞き苦しい点多々あると思いますが、ご容赦いただければ幸いと存じますのでよろしくお願いします。それでは、雑誌広報渉外委員会担当例会ということで、今日は9月は『ロータリーの友』月間ということで、国際ロータリーRIから認可した機関雑誌である『ロータリーの友』について話していきたいと思います。まず、画面に映ってる表紙なんですけど、これ今月号9月号の表紙になります。この9月号を元に話していきたいと思います。隣に映ってる歯車マーク、これ後から出てくるのでちょっと気に留めておいてください。では、それでは始めていきます。『ロータリーの友』誕生物語ということで、『ロータリーの友』の創刊したきっかけは1952年7月、日本のロータリーが2地区に分割されたことで、分割後もお互いの地区のことを知っていただきたいという思いから翌1月両地区の懸け橋として誕生しました。それ以来、友は日本のロータリアンを結ぶお手伝いをしています。ちなみに、今年の1月で創刊70周年を迎えます。それと、この『ロータリーの友』の由来というのをご存じの方いらっしゃいますか。実はこれは『主婦の友』ってあるじゃないですか。そこから何かヒントを貰って『ロータリーの友』という流れになったそうです。最初に『ロータリーの友』の機関雑誌ということの説明しましたが、もうちょっと詳しく説明していきたいと思います。

ロータリアンは国際ロータリーが認可したロータリーの雑誌の購読の義務があります。なので、『ロータリーの友』を購読することはロータリーの中の三大義務の一つとなっております。皆さんはもうロータリー歴長いと思うので、残りの二つはなんだからわかりますよね。三大義務は例会の出席、会費の納入、そして機関雑誌である『ロータリーの友』の購読となっております。機関雑誌については、今画面に映ってるこれ各それぞれの国で出してる機関雑誌なんですけど、上段がアメリカの本部で出してる『Rotary』。こちらはちなみに発行部数が50万部です。その隣のオーストラリアの機関誌、こちらは発行が2万8600部です。下段の左から、こちらはチリの機関雑誌で4400部の発行です。その隣がノルウェーの機関雑誌でこちらは4300部。その隣が台湾の機関雑誌で発行部数が2万2000部。その一番右は皆さんもご存じの日本の『ロータリーの友』。こちらの発行部数どれぐらいか。こちらは発行部数8万4000部発行しております。なので、他の国に比べると結構日本の『ロータリーの友』の発行部数って多いんじゃないかなって思いました。今、各国の機関雑誌で共通してる事は何かわかりますか。これ本当単純にRotaryというロゴがすべてに入ってますよね。これがすべてにおいて共通してる事なんです。このRotaryのロゴを機関雑誌に国際ロータリーから機関雑誌として認定されるには、まずこのRotaryのロゴを入れることがあります。その他にも今画面に映ってる一部ですが6つの項目が認可を受けるためにあります。一番のRIが指定した記事を掲載すること。こちらはRI会長メッセージや財団管理委員長メッセージなどのほか、国際大会参加推進の記事、会長エレクトのQ&Aなど、RIから指定された記事を掲載しています。②の国際ロータリーの方針を伝えること。こちらはRIの方針、方向性の理解を深まるような記事を掲載しております。③年に6回以上発行すること。少なくとも各号24ページ以上ということで、日本の場合は月1回発行されてますので年12回発行してることとなります。④雑誌の内容の50%はロータリーに関係した記事であること。⑤読者が印刷媒体か電子媒体かを選択することができること。6番、RIの資金援助を受けずに経済的に独立すること。一部であります。こちらは認可を受けるのに必要な項目となっております。今日は1番、RIが指定した記事を掲載すること。2番、国際ロータリーの方針を伝えること。⑤読者が印刷媒体か電子媒体かを選択できることについてもうちょっと詳しく説明していきたいと思います。①の国際ロータリーが指定する記事を掲載するということは、ロータリーの機関雑誌として国際ロータリーの本部が指定する記事を掲載するとなっています。それと同時にロータリアンはロータリーの雑誌を購読する義務があります。ロータリアンは本部が指定した記事を読む必要があります。毎月、RIが掲載する指定する記事には会長メッセージ、財団管理委員長メッセージ、国際大会の参加推進記事があります。指定記事には画面にも映つてるとおり、地球儀にRIと書いて指定記事というものが必ず付いてますのでこちらはなるべくなら読んでいただきたいと思います。続きまして、国際ロータリーの方

針を伝えることでロータリーの特別月間に極力合わせた記事の特集として掲載しているほか、ロータリーの最優先課題であるポリオの根絶活動についても掲載しています。ちなみに、今月は『ロータリーの友』月間ということで、横組みのページに『ロータリーの友』月間ということで載っておりますので、読んでない方は今一度戻ってから読んでみると結構『ロータリーの友』の活動内容とか、そういったものが載ってますので是非読んでみてください。続きまして、国際ロータリーの方針を伝えるということで、RIは近年統一性のあるブランディング構築を目指しています。この為にはロータリークラブやロータリーアクターほか、各種ロータリーのプログラムで公式ロゴを正しく使うことが推奨されてるということで、この今二つの画面を見ると、駄目なんですよ、このロゴだと。それは何でかわかります。ヒントは一番最初にこの歯車マーク。覚えておいてください。今のロータリーの歯車マークは単色になってるんですね。これ画面見ると、これ何だろう、二色使いとかなっているの、今は単色の画面で見るとちょっと小っちゃいですが、この歯車マークはこの単色で使うのが正式なロゴとなっております。その正しく使うためにはこちらのマイロータリーの中のブランドソースセンターにこのように掲載しておりますので、何か資料を作る際にはこちらを参考にさせていただいて作ってもいいのかなと思います。⑤、電子版で購読もできるということで、先程も喋ったんですけど『ロータリーの友』を購読してる人は印刷媒体か電子媒体を選択することができます。最新号は毎月1日に更新されます。こちらご覧になった方いらっしゃいますか。じゃあ、今この場で見てみましょう。まず、でも見るのにはIDとパスワードが必要になってきますので、白河西クラブの場合はIDが2530-01706。パスワードは01706-251となっておりますので、このパスワードをまずブラウザを立ち上げて何でもヤフーでもグーグルでもいいので、それを立ち上げて『ロータリーの友』で検索すると、この『ロータリーの友』というホームページが出てきますので、こちらの中の友電子版という所を押して。すいません、繋がらないのでやめます。すいません。でするので、ブラウザを立ち上げてロータリーの友と検索してもらおうと、『ロータリーの友』のページが出てきますので、先程言ったIDを入力すると創刊号から最新号まですべて見れるようになってますので、一度帰って試してみてください。その他の条件として、7月号にはRIから配信される新会長の写真を使うことが機関雑誌として決められていますが、今年は皆さんご存じのとおりRI会長エレクトが直前で辞任されたため、7月号の表紙には新しい会長の写真を使うことができませんでしたよね。なので、通常は7月号はRI会長の写真を使うことで機関雑誌に認定されるということです。ロータリーの雑誌の購読が義務付けられたのは、1977年の規定審議会です。『ロータリーの友』がRIから公式地域雑誌として承認を受けたのが1980年なので、この時期に前後してRIの情報が掲載するようになりました。『ロータリーの友』が国際ロータリーのオフィシャルな情報を掲載しつつ、創刊当初の目的である国内のロータリアンの情報交換や親睦を深めるような記事の掲載

を続けています。ちなみに、今年度『ロータリーの友』の表紙はロータリープログラム参加者の皆さんの絵画が表紙となっております。友の特徴として表紙が二つあり、横組み縦組みで構成されております。それは何故かということ、創刊時はすべて横書きでした。しかし、俳句を掲載するようになり部分的に縦書きで掲載するようになりました。その為、横書き縦書きが混載していましたが、縦書きで掲載する記事も増えたため、1972年1月から縦書きと横書きに分かれた表紙が二つある形式になりました。現在は、横組みではRI関連の記事。特集、ロータリーに関する理解を含める記事を中心に取り上げています。今年度から、ロータリークラブ地区の活動を紹介するロータリー・アットワークを横組みの掲載に変更しました。縦組みは、読者のエッセイ、俳句など趣味のコーナー、知識が広がる講演や卓話の趣旨など会員同士で親睦を深めるような記事を掲載しております。ですが、先程も言ったようにRIの指定記事を読んでこそ会員の購読義務を果たしますので、指定記事も読むようにしてください。こちら記事を会話のきっかけに活用するという2年前から出来たコーナーなんですけど、こちらはロータリークラブでありがちな話や相談などが質問で寄せられて、それを熟練のロータリアンが答えるような形式を取っているの、ロータリアン同士でなんか話のきっかけになるような記事を書いて掲載しているようです。次に、ご投稿をお待ちしております。これちょっと注意点だけ説明しますが、投稿する際に2024-25年度から国際ロータリーの方針にはかりお送りいただく原稿、写真に関して著作権、肖像権に関する同意をいただくことになりました。これを徹底するため、ご投稿はウェブサイトからお送りくださるようご協力をお願いしますということで、著作権と肖像権に関しては厳しくなりましたので、投稿する際は気にかけて投稿するようにしてください。最後になりますが、基本的に『ロータリーの友』はロータリアンのための機関情報誌です。横組みのページはRIの指定記事、ロータリーの特別月間の関連記事、特集、地区やクラブの活動などを掲載しています。縦組みページには、ロータリアンと個人としての意見や経験談、エッセイ、俳句、短歌、川柳の投稿、などを掲載しています。会員歴の浅い方やロータリアン以外の方がお読みになっても、ロータリーの理念や活動がわかる内容に編集してあります。同時に、役立つ情報、社会の話題を取りあげて内容の充実を図った雑誌となっておりますので、改めて今日ちょっとあんまり伝わらなかったかもしれないですけど、改めてまた『ロータリーの友』を振り返って読んでみると、もしかするとなんか違った観点で見れるのかもしれないので是非お試しください。今日はありがとうございました。